

# 私の3・11

大西 千穂子（茨城県）

3月4日、次男が産声をあげた。予定日より3週間も早く生まれたその子は3140gもあり、皆を驚かせた。40歳を目前にして久々の赤ちゃんとの生活が始まった。

黄疸が強かったため、退院が予定より2日延びた。夫が病院に迎えに来て、薬局とスーパーで買い物をして自宅に向かった。この子にとって初めて吸う外の空気、初めて乗る車、そして初めての我が家はどんな風を感じるのだろうか。今日から家族が1人増える新生活がスタートするのだ。弟が生まれるのを誰より心待ちにしていた長男は、どんなにわくわくしながら学校から

て、長男は無事だろうか。色々な不安が頭をよぎる。

家に帰ると夫と母が家の中を片付けていた。半年前に建てたばかりの我が家が目茶苦茶になっているのを見るのは辛かった。庭には大きな地割れができ、門柱が大きく傾いている。ショックだった。しかもまだ揺れは断続的に続いている。余震が来る度に車は大きくバウンドするが、次男は何事もないかのようにすやすやと眠っている。「ただいま！」と長男の声がした。ああ無事でよかった。「いあん君、我が家によく来たね」長男の満面の笑顔に勇気をもたらした。しつかりしなくちゃ！家族が揃っていれば何とかかなると思えた瞬間だった。

その夜は真っ暗な中、わずかな灯りで過ごした。トイレも使えず、もちろんお風呂もなし。真っ暗な中で授乳しながら私は次男につぶやいた。「いつもはこんなんじゃないのよ。酷い所に来ちゃったと

帰ってくることだろう。そんな事を思いながら自宅近くの細い畑道に入った時だった。車が異常な揺れ方をしている。故障か？と思ったが外を見ると電線が大きく波打っている。夫が車を止めて言った。「地震だ。かなり大きいな」揺れが弱くなったのを見計らい自宅へと急いだ。泊り込みで手伝いに来てくれている母が心配だった。

家に着くと、母が庭に出ていた。無事な姿に安堵する。70近い母ですら今まで体験したことのない大きな地震だと言う。家の中は色々な物が倒れたり落ちてきて、凄まじい状況らしい。電気も止まり、テレビで状況を確認することもできない。「水でもないのよ。すぐ買いに行った方がいいわ」母に言われてすぐに近くのコンビニに向かった。しかしすでにこの店も閉まっている。自動販売機で水を買おうにも停電で動かない。どうしよう。まさか退院の日にこんな事態が起きるなん

思わないでね」「こんな日に退院したなんて、この子は大物になるよ」と母が笑った。夫がどこからか水を調達してきて、薪ストーブで具沢山のスープを作ってくれた。そのスープの温かさや美味しさを私は一生忘れない。

家族や友人、たくさんの人々に守ってもらったお蔭で、よちよち歩きの次男がいる。ありがとう。この絆を大切に生きていこう。

